

平成28年度「東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果について

1 目 的

- (1) 都教育委員会は、学習指導要領に示されている教科の目標や内容の実現状況及び、読み解く力に関する定着状況を把握し、全都における教育行政施策に生かす。
- (2) 区市町村教育委員会は、教育課程や指導方法等に関わる自地区の課題を明確にし、その充実・改善を図るとともに、自地区の教育行政施策に生かす。
- (3) 各学校は、教育課程や指導方法等に関わる自校の課題・解決策を明確にし、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (4) 都教育委員会は、都民に対し、東京都の公立小・中学校における児童・生徒の学力の状況について、広く理解を求める

2 実施日 平成28年7月7日(木)

3 対象学年 都内公立小学校 第5学年 都内公立中学校及び中等教育学校 第2学年

4 調査内容

- (1) **児童・生徒の学力向上を図るための調査**

【小学校】 4教科:国語・社会・算数・理科	【中学校】 5教科:国語・社会・数学・理科・外国語(英語)
A 「学習指導要領に示されている教科の目標及び内容」の実現状況に関する内容	
B 「読み解く力」の定着状況に関する内容	
【取り出す力】文章や図表、グラフ等を手がかりに、問題を解くのに必要な情報を正確に取り出す力	
【読み取る力】取り出したいくつかの情報を比べたり、関連付けたりして、問題の内容を読み取る力	
【解決する力】読み取った内容と、自分の知識や経験とを照らし合わせて、意図や背景、理由を考えて解決する力	
※A・Bは説明上、事務局が追記した表現。	
- (2) **児童・生徒質問紙調査** 児童・生徒の生活や学習に関する意識や実態に関する調査

学校質問紙調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査
----------------	-----------------------------------

5 調査結果

東京都 :速報値による調査実施校の約10%に当たる抽出校の平均値(最終結果は11月の予定)
 武蔵野市:自校採点数値から算出 【平均正答率 %】

	小学校 第5学年								中学校 第2学年							
	武蔵野市				東京都				武蔵野市				東京都			
	A	B	AB の差	合計	A	B	AB の差	合計	A	B	AB の差	合計	A	B	AB の差	合計
国語	81.3 (+4.8)	71.4 (+9.6)	[9.9]	79.8 (+5.5)	76.5	61.8	[14.7]	74.3	80.2 (+7.3)	66.9 (+7.6)	[13.3]	78.1 (+7.4)	72.9	59.3	[13.6]	70.7
社会	78.5 (+5.6)	80.8 (+9.1)	[-2.3]	79.1 (+6.5)	72.9	71.7	[1.2]	72.6	65.2 (+7.6)	68.8 (+10.7)	[-3.6]	65.9 (+8.2)	57.6	58.1	[-0.5]	57.7
数学 算数	75.1 (+7.4)	53.1 (+10.2)	[22.0]	70.8 (+7.9)	67.7	42.9	[24.8]	62.9	69.8 (+8.3)	46.2 (+9.9)	[23.6]	64.9 (+8.5)	61.5	36.7	[24.8]	56.4
理科	69.2 (+5.7)	68.1 (+8.9)	[1.1]	68.9 (+8.5)	63.5	59.2	[4.3]	62.4	63.1 (+5.4)	56.9 (+11.6)	[6.2]	61.7 (+6.9)	57.7	45.3	[12.4]	54.8
英語									67.1 +11.4	69.4 +15.3	[-2.3]	67.6 (+12.2)	55.7	54.1	[1.6]	55.4

※武蔵野市の結果の下段()は、「都との差」。「都との差」及び「ABの差」については、事務局で追記した数値。

6 本市の状況の概要

- 教科、A問題、B問題の全てで東京都の平均正答率を上回っており、「学習指導要領に示されている教科」の基礎的・基本的な学習内容とともに、読み解く力(取り出し、読み取り、解決する)の定着の程度が高いといえる。
- 小学校の国語及び小・中学校の理科は、A問題とB問題の差が東京都と比べて少ないことから、もてる「知識(A)」を「活用(B)」しているといえる。
- ▲ 中学校の国語と小・中学校の算数・数学は、A問題とB問題の差が東京都とほぼ同じであることから、さらに読み解く力の向上に向け、授業改善を図っていく必要がある。